

土地利用型法人の経営戦略の策定と 持続的経営の展開



計画期間：令和5年度～令和7年度

対象：農事組合法人おおぬき彩土里ファーム

チーム員：美里農業改良普及センター

沼倉夕子 佐藤典子 渋谷智行 伊藤大河

農事組合法人おおぬき彩土里ファームについて

大崎市田尻の鹿飼沼地域の圃場整備事業を契機に令和3年に法人化。

【現在の経営概要】

役員6人、組合員20戸

代表理事1人（40代）、役員5人（60～70歳代）

経営面積 約80ha

主食用米38ha（うち乾田直播8.8ha）、種子用小麦2.3ha、大豆24ha、小麦9.7ha、さつまいも0.6ha、牧草3.9ha

※R7作付け計画

対象法人における現状及び課題

法人としての経営管理能力不足

- 複式簿記が不慣れな役員が多く、決算書の見方について懸念がある
- 経営品目別の収支について把握していない
- 組織体制が確立途上にある
- 代表（40歳代）を除く構成員の高齢化と若い担い手の不足
- 企業的な視点の不足

水稲単一経営への依存度が高い

- 繁忙期が集中しており、特に冬場の仕事がない

条件不利農地（10ha）がある

- 水張りができない農地の活用の検討が必要

活動内容

○経営管理能力向上支援

○栽培技術向上支援

成果指標

○定性的目標

習得した経営管理のスキルを活かして、新規品目等を含めた事業計画の見直しが行われ、持続的な法人運営が可能になる

○定量的数値目標

新規導入品目数

R4 : 0 → R5 : 1 → R6 : 1 → R7 : 2

経営管理能力向上支援（令和5年度）

- 財務諸表を理解し、事業計画の策定及び見直しの重要性について理解を深めた。
- 法人自ら「総会」を円滑に開催することができるようになった。
- 条件不利農地の今後について検討した。
- 5か年の「将来ビジョン」を作成、法人の将来の姿を共有できた。



経営管理研修会の開催

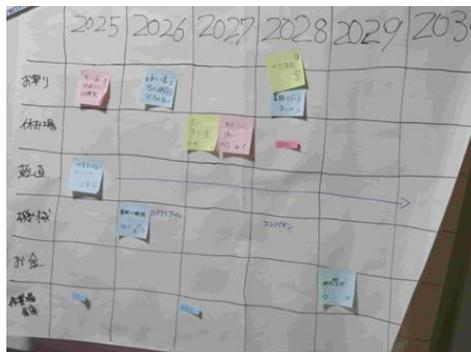
～人も農業も彩り豊かに営んでいく～

○5年後の目標

<p>視点① ヒト</p>	<ul style="list-style-type: none">・オペレーター常時従事5人確保できるよう、人材を雇用・育成する。・生き生きと働ける環境づくりのため、年齢・能力に合わせた業務配分を実施する。
<p>視点② モノ</p>	<ul style="list-style-type: none">・現在の作付面積を維持または拡大していく。・業務効率化のため、適切なほ場と品目を選定する。・機械化による省力化のため、ライスセンター建設による労働集約化・省力化、適期機械更新を実施する。
<p>視点③ カネ</p>	<ul style="list-style-type: none">・経常利益アップ(4,700万円→5,000万円！)・十分な労働賃金の支払いを目指す。・計画的な資金繰りを実施する。

経営管理能力向上支援（令和6年度）

- ビジョンの実現に向けて5か年の「設備投資計画」と「収支計画」を作成した。
- 条件不利地の返還に伴う減収分を補うため「さつまいも」を栽培品目にすることを決定した。
- ライスセンターの完成による作業の効率化や大豆の乾燥調製作業など冬季作業の創出ができた。

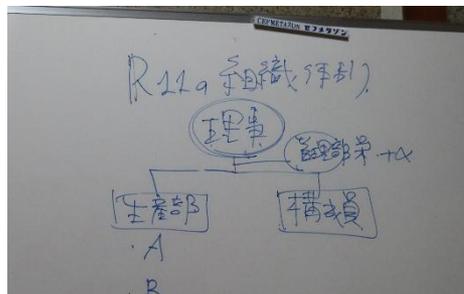


○5か年の設備投資計画

	1年目 (6年度) R6.5.1~ R7.4.30	2年目 (7年度) R7.5.1~ R8.4.30	3年目 (8年度) R8.5.1~ R9.4.30	4年目 (9年度) R9.5.1~ R10.4.30	5年目 (10年度) R10.5.1~ R11.4.30	6年目 (11年度) R11.5.1~ R12.4.30
お祭り		・収穫祭	・研修行事		・星野リゾート ・大忘年会	
休憩所				・冷暖房完備休憩所建設 ・洋式トイレ整備	・人材雇用	
乾直		・無代かき栽培開始				
機械			・ハイクリブーム		・コンバイン	
お金						・地代値上げ
作業場 倉庫		・倉庫建設		・作業場建設		

経営管理能力向上支援（令和7年度）

- 5か年の「収支計画」を修正し、「設備投資計画」の見直しと併せた機械等導入。
- キャッシュフローの作成による年間の収支状況の把握ができた。
- 組織体制の検討を開始した。
- 条件不利地の返還について合意した。



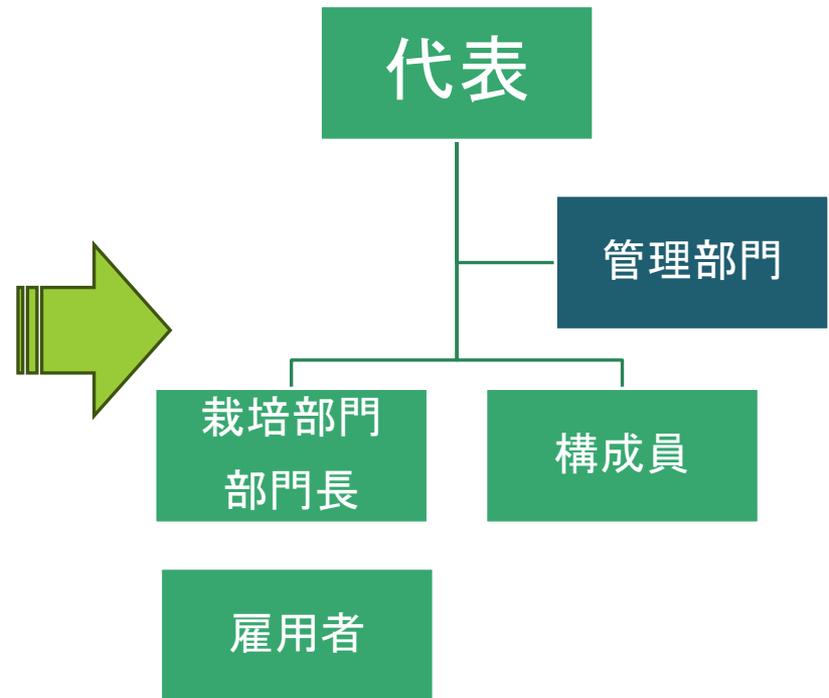
○5か年の設備投資計画(R7見直し後)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
お祭り	・収穫祭	・研修行事	←-----	・星野リゾート ・大忘年会	
休憩所	(冷暖房完備)休憩所建設		・洋式トイレ整備	・人材雇用	
乾直	・無代かき栽培開始				
機械	ハイクリブーム トラクター スリッ ローラー シーダー		←-----	コンバイン	
お金					地代値上げ
作業場 倉庫	倉庫建設		作業場建設		

「鍋蓋型」の組織から



「管理部門」を設置し、部門責任者を置く体制へ移行検討

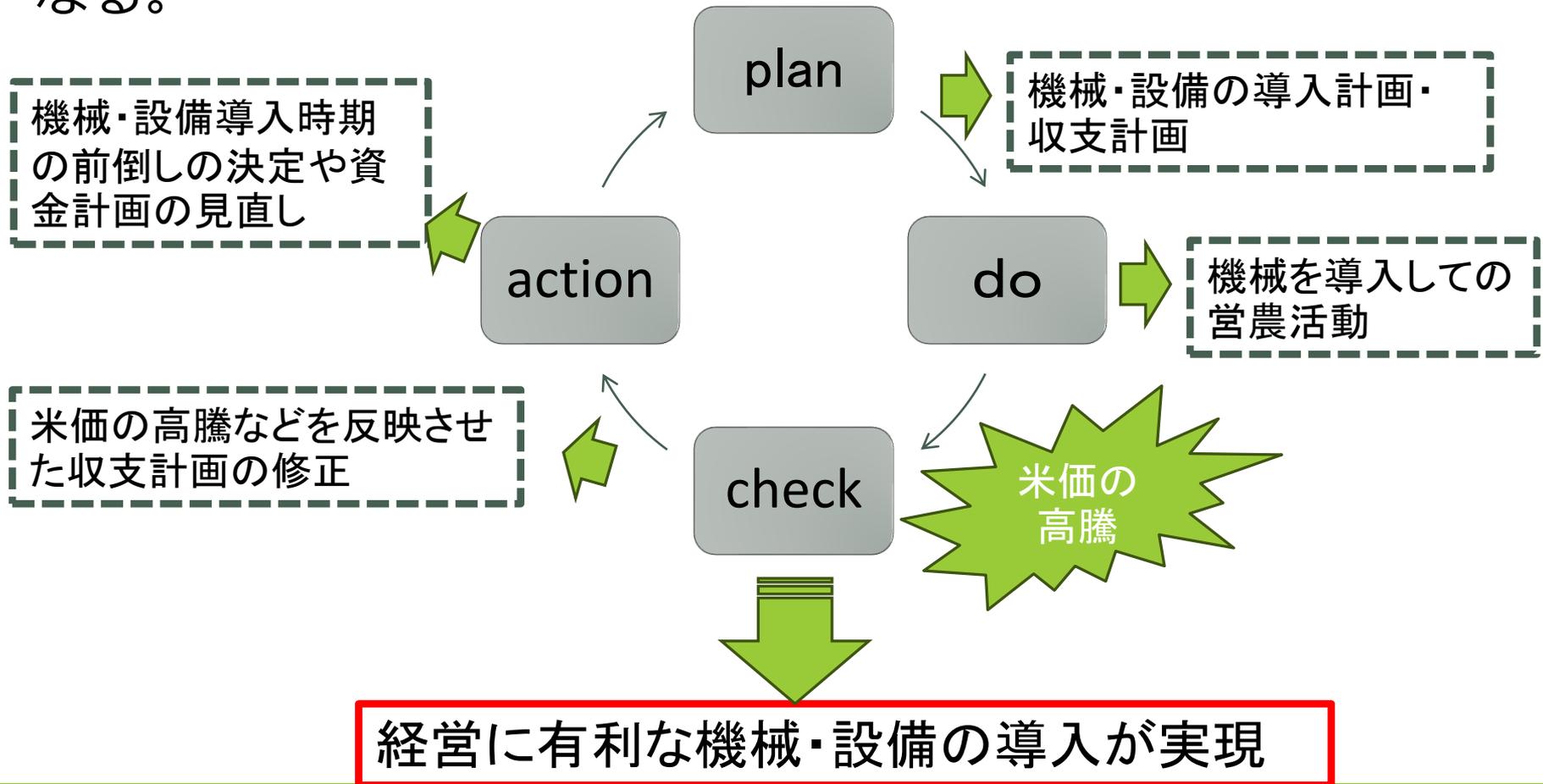


- ・代表の負担が大きい
- ・指示が2方向からということも...

- ・指示系統のスムーズ化

定性的目標 (R7)

習得した経営管理のスキルを活かして、新規品目等を含めた事業計画の見直しが行われ、持続的な法人運営が可能になる。



栽培技術向上支援（令和5年度）

- 圃場の雑草対策
- 防除方法の打合せ
- 巡回指導（雑草防除の実施）
- 施肥、排水性改良指導



排水対策
（カットドレン）
1.5m間隔×深さ45~50cm



大豆・小麦巡回指導

栽培技術向上支援（令和6年度）

さつまいも

- ・ 30 a 栽培開始
- ・ 土壌分析に基づく施肥及び排水対策について指導
- ・ 省力化に向けた定植機等の視察
- ・ 出荷収量は1,121kg/10a（定植時の高温・
渇水の影響）

長ねぎ

- ・ 冬期間の労働の確保のための品目として定着

栽培技術向上支援（令和7年度）

さつまいも

- ・面積拡大（30 a → 60 a）に伴い、省力化を目的に生分解性マルチの検証。「つる切、マルチ除去、掘り取り」の作業時間で約20%の削減結果。

種子用小麦

- ・令和6年11月から播種開始。巡回指導により検査合格し契約数量確保。
- ・食用小麦より販売単価が高く法人の評価は高い。

水稻乾田直播栽培

- ・面積拡大（R6 4.2 → R7 8.8ha）に伴い技術指導。

定量的数値目標

新規導入品目数

(目標) R4 : 0 → R5 : 1 → R6 : 1 → R7 : 2

(実績) R4 : 0 → R5 : 1 → R6 : 3 → R7 : 4

牧草

牧草
さつまいも
ねぎ

牧草
さつまいも
ねぎ
種子用小麦
(乾田直播)



- ・ 牧草、さつまいも、ねぎ、種子用小麦が導入され、栽培品目として定着。
- ・ さつまいもは、2haまで拡大する計画。種子用小麦の生産について、法人の評価は高い。
- ・ 省力に向けた主食用米の乾田直播も拡大意向。

今後の法人運営について

○経営面



企業的な経営視点へ

- ①継続的な経営管理
- ②従業員の雇用に向けた体制整備
 - ・求人票の作成や就業規則等の見直し
 - ・農業大学の「法人セミナー」へ参加、研修受け入れ
 - ・農業振興公社の「農業体験受け入れ」※登録済み
- ③法人の組織体制の変更（次期総会に諮る予定）
 - ・「鍋蓋型」の組織 → 部門制（手当の新設）

○生産面

- ①さつまいもの面積拡大に伴う調整作業・出荷先の検討
みやぎ生協メインからJA全農出荷の拡大
段階的に2haまで拡大予定（R11）
- ②主食用乾田直播の面積拡大に伴う安定生産
R7 8.8ha → R8 15ha
- ③種子用小麦の生産継続
R7 2.3ha → R8年 2.1ha

ご清聴ありがとうございました。

